

泉佐野市男女共同参画に関する 市民・事業所アンケート調査 結果報告書 【ダイジェスト版】

■調査の目的

令和 4（2022）年度から令和 13（2031）年度を計画期間とする「（仮称）第 3 次泉佐野市男女共同参画推進計画」の策定にあたり、男女共同参画に関する市民や事業所の実態や意識を把握し、計画策定の基礎資料として活用することを目的としてアンケート調査を実施しました。

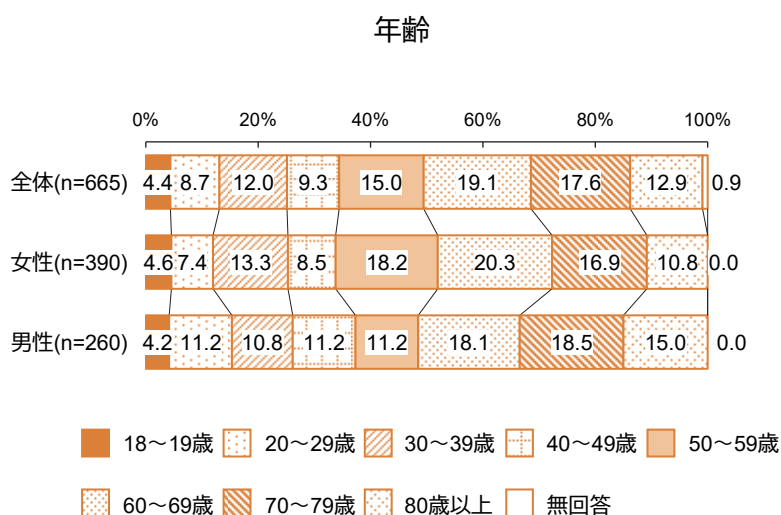
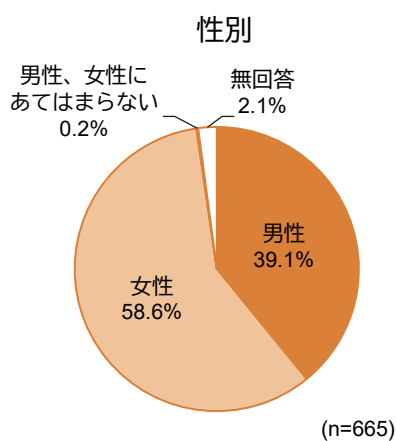
■調査の概要

- 調査対象 :【市 民】市内に居住する満 18 歳以上の男女 1,500 人
【事業所】泉佐野・熊取・田尻事業所人権連絡会に加入の市内の事業所 129 社
- 調査方法 : 郵送による調査票の配布および回収
- 調査期間 : 令和 2 年 11 月 1 日～11 月 30 日
- 有効回収数:【市 民】665 票（有効回収率 44.3%）
【事業所】 80 票（有効回収率 62.0%）

【ダイジェスト版の見方】

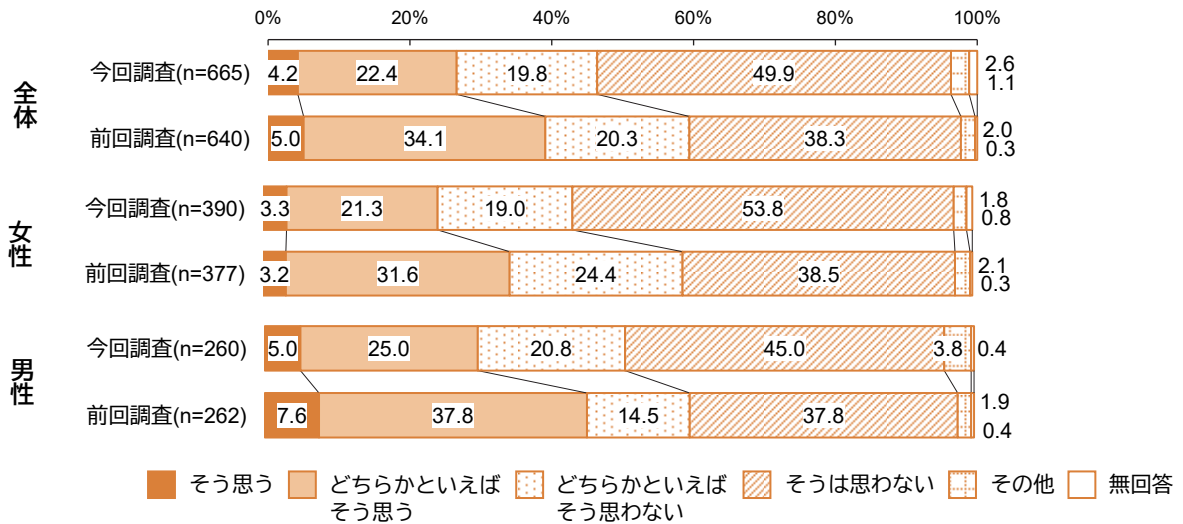
- ・調査結果の数値は%で、回答者数は n を示しています。
- ・数値は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計しても 100%にならない場合があります。
- ・複数回答の場合は、合計が 100%を超える場合があります。

■回答者のプロフィール



■「男は仕事、女は家庭」という考え方

問 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。(○は1つ)



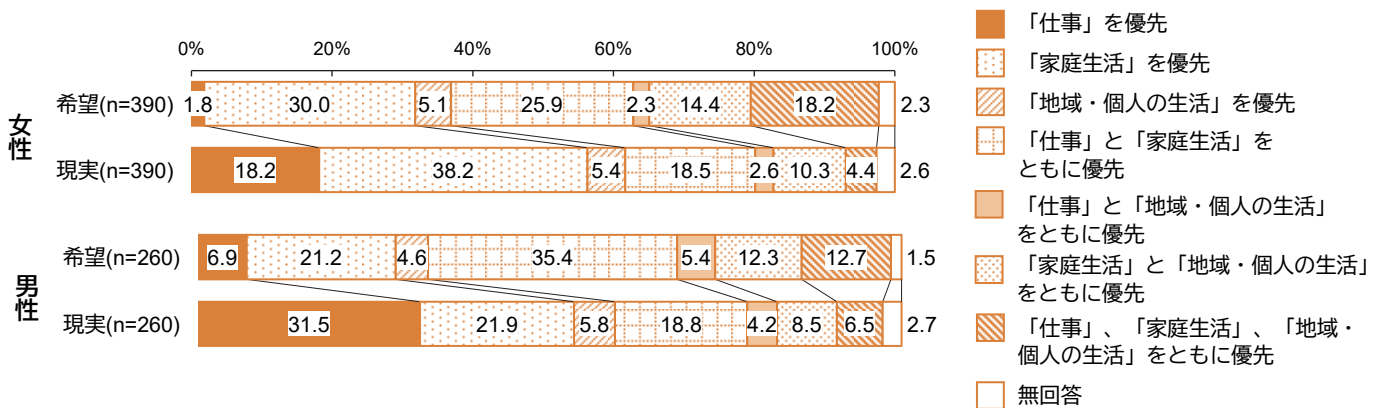
■性別役割分担意識は男女とも『反対派』が『賛成派』を上回る

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、男女とも『反対派』の方が『賛成派』よりも高いものの、女性は『反対派』が72.8%に対して、男性は65.8%で、7ポイントの差となっています。

前回調査と比較すると、男女とも『反対派』の割合は前回調査を上回っています。また、男女の意識差は小さくなっています。

■「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問 あなたは、生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活(地域の活動、趣味、学習、社会参加活動など)」で何を優先しますか。希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれお答えください。



■女性は家庭生活の優先度が希望と現実ともに高く、男性は希望と現実の優先度が一致しない

女性は『家庭生活』を優先したい(希望30.0%・現実38.2%)が希望現実ともに最も高くなっており、『仕事』、『家庭生活』、『地域・個人の生活』をともに優先したいは、希望が18.2%に対し現実4.4%と低くなっています。

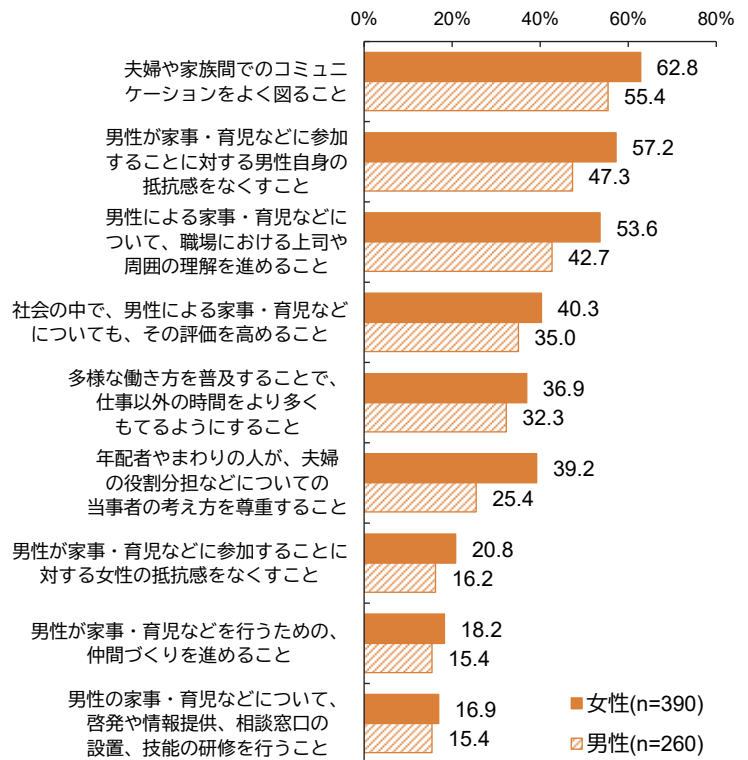
男性は希望では『仕事』と『家庭生活』をともに優先したい(35.4%)が最も高いが、現実では『仕事』を優先している(31.5%)が最も高くなっています。

■男性の家事、子育て、介護などへの積極的な参加を促進していくための方策

問 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

■男性が家事、子育て、介護などへ積極的に参加するためには、互いのコミュニケーションが大切

男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」(女性 62.8%・男性 55.4%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(女性 57.2%・男性 47.3%)、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(女性 53.6%・男性 42.7%)の順で挙げられており、上位項目だけでなくすべての項目で女性の方が回答割合が高くなっています。

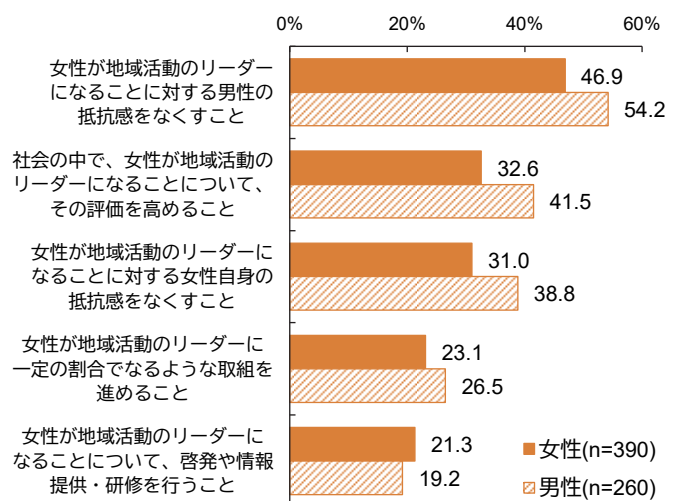


■地域活動において女性リーダーを増やすために必要な取組

問 あなたは、自治会長や PTA 会長など、地域活動において女性のリーダーが増えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

■女性リーダーを増やすために必要なことは、男女双方の抵抗感の解消

地域活動において女性リーダーを増やすために必要なことは、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」(女性 46.9%・男性 54.2%)、「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」(女性 32.6%、男性 41.5%)、「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(女性 31.0%・男性 38.8%)の順で挙げられており、いずれも男性の方が回答割合が7ポイント以上高くなっています。

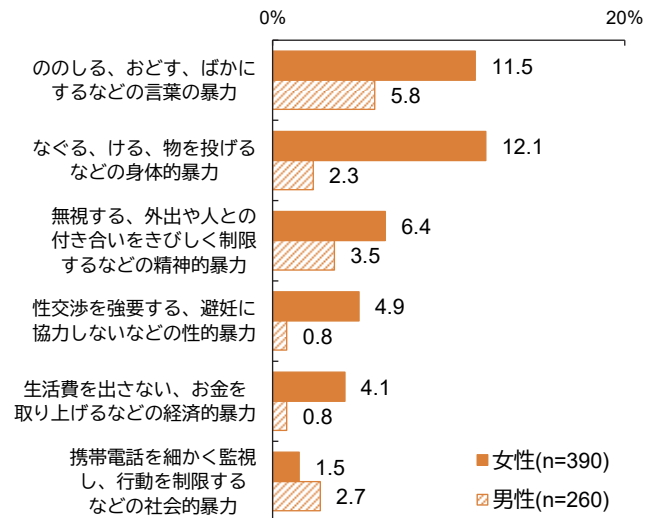


■ドメスティック・バイオレンスを受けた経験

問 あなたは、配偶者・パートナーや恋人から一度でも次のような行為を受けて恐怖を感じた経験がありますか。(〇はいくつでも)

■恐怖を感じる行為を受けた経験は、女性の方が男性より10ポイント以上高い

ドメスティック・バイオレンスを受けた経験は、女性では「なぐる、ける、物を投げるなどの身体的暴力」と「ののしる、おどす、ばかにするなどの言葉の暴力」がそれぞれ10%を超えています。社会的暴力以外いずれも女性の方が経験した割合が高くなっています。

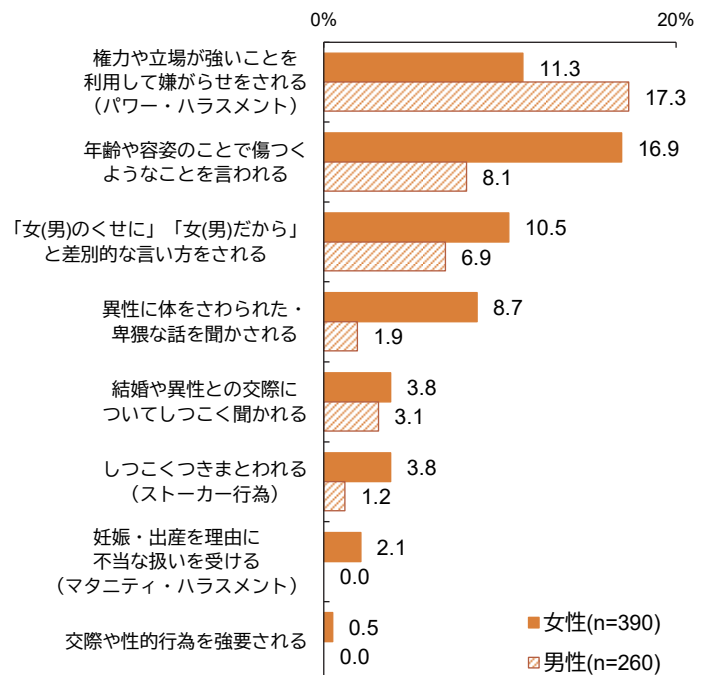


■ハラスメント等を受けた経験

問 あなたは、職場や学校、その他の活動の場で次のような不快と感じる行為を受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

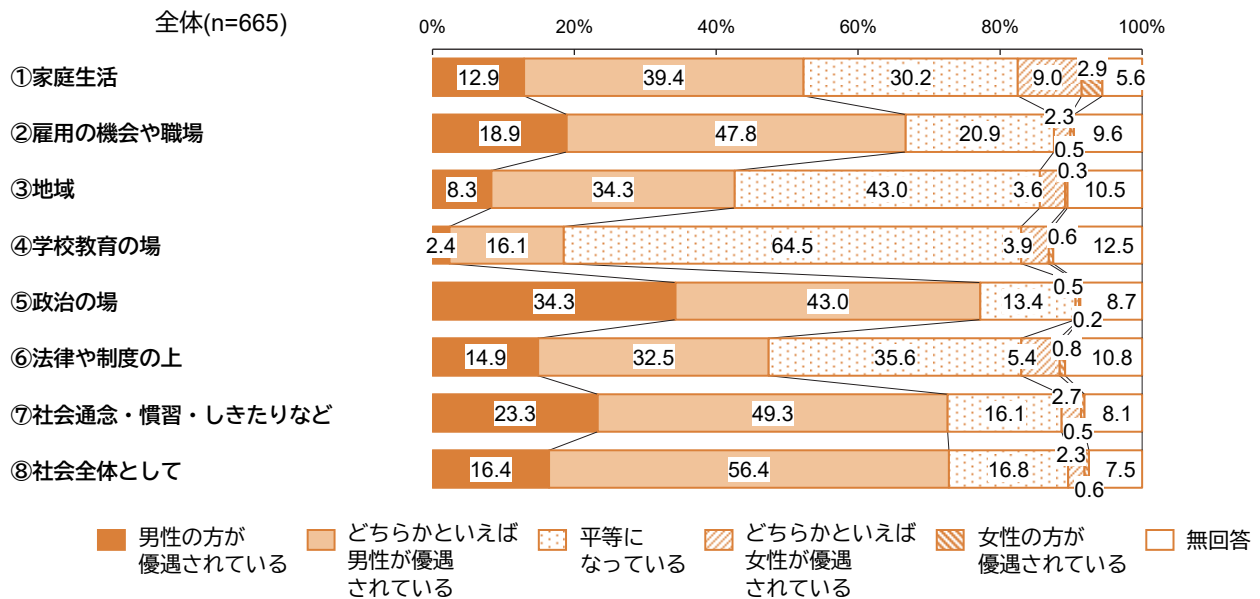
■女性の方がハラスメント等を受けた経験は多い

ハラスメント等を受けた経験は、女性は「年齢や容姿のことで傷つくようなことを言われる」が16.9%、男性は「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」が17.3%と最も高くなっています。女性は「権力や立場が強いことを利用して嫌がらせをされる(パワー・ハラスメント)」(11.3%)と「『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされる」(10.5%)も1割を超えています。



男女の地位の平等感

問 あなたは次の①～⑧で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの考えに最も近いものをお答えください。(〇は①～⑧それぞれに1つ)



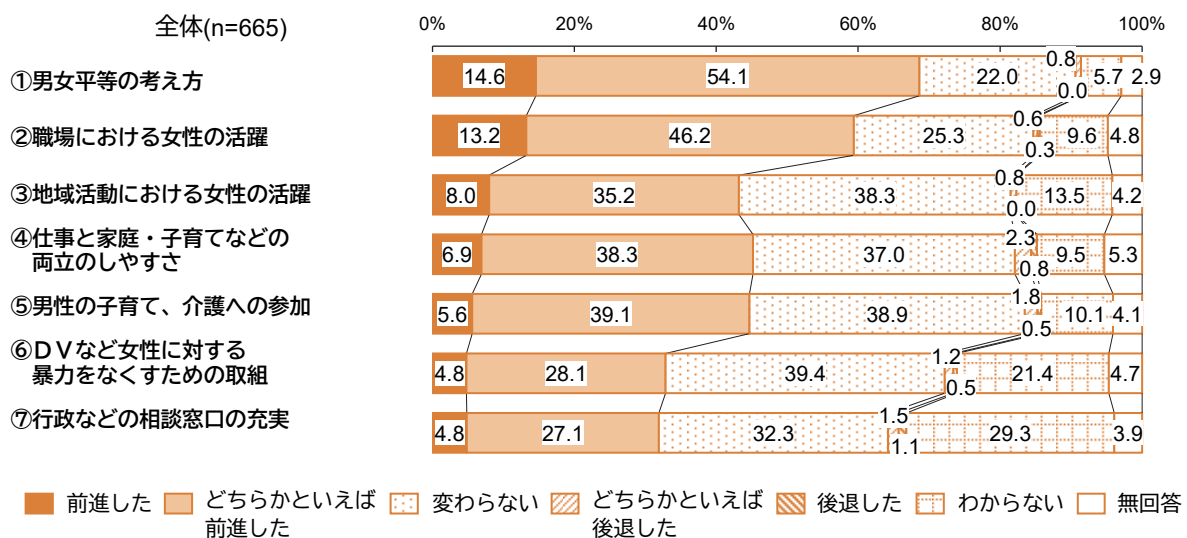
社会全体として男性優遇と感じている人は7割以上

男女の地位の平等感については、「平等になっている」が『男性優遇』を上回っているのは、「④学校教育の場」(64.5%)と「③地域」(43.0%)のみとなっています。

その他の分野はいずれも『男性優遇』の割合が高く、「⑤政治の場」「⑦社会通念・慣習・しきたりなど」「⑧社会全体として」では7割を超えています。

この10年間における男女共同参画の進展

問 この10年間で、あなたの周囲の状況から判断して次の①～⑦がどの程度進んだと思いますか。(〇は①～⑦それぞれに1つ)

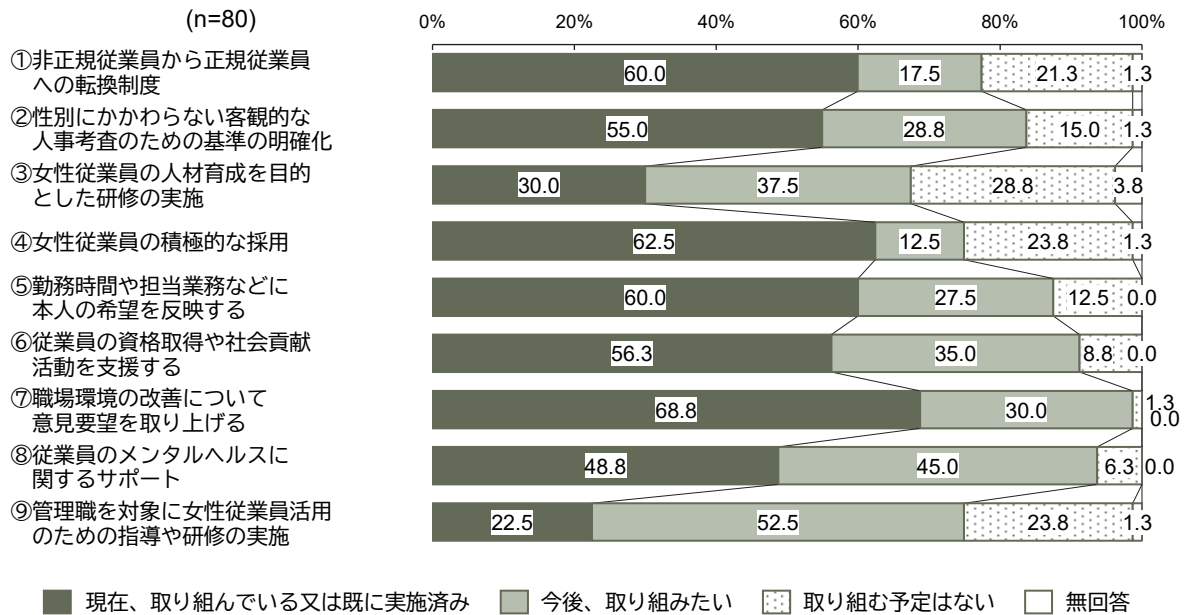


「男女平等の考え方」「職場における女性の活躍」は半数以上が、前進と評価

この10年間における男女共同参画の進展は、「①男女平等の考え方」と「②職場における女性の活躍」については、男女とも5割以上が『前進した』と感じています。

事業所調査 女性の積極的登用のための取組

問 貴事業所において、女性を積極的に登用するために、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。(〇は①～⑨それぞれに1つ)



■女性の積極的登用に取り組む事業所は多いが、指導や研修の実施割合は低い

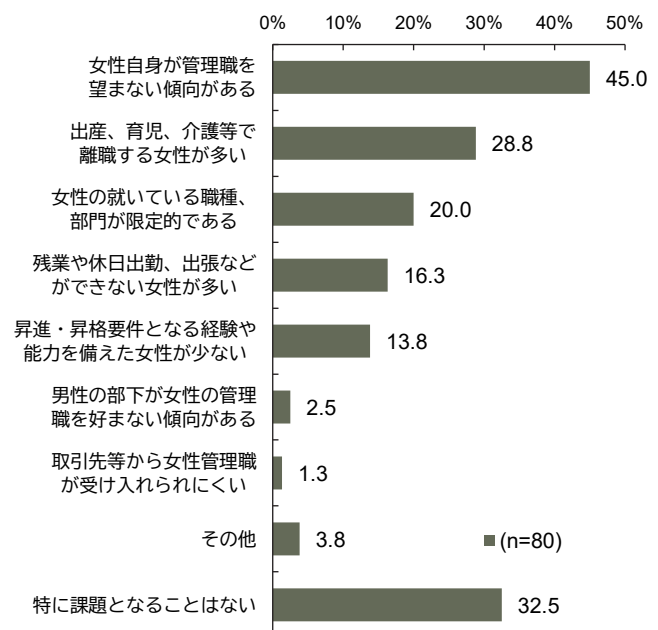
女性の積極的登用のための取組では、「現在、取り組んでいる又は既に実施済み」と「今後、取り組みたい」を合わせた割合は、全項目で6割を大きく上回っており、「⑦職場環境の改善について意見要望を取り上げる」は98.8%を占めています。

事業所調査 女性の管理職登用にあたっての課題

問 女性を管理職に登用するうえで課題となるのは、どのようなことですか。(〇はいくつでも)

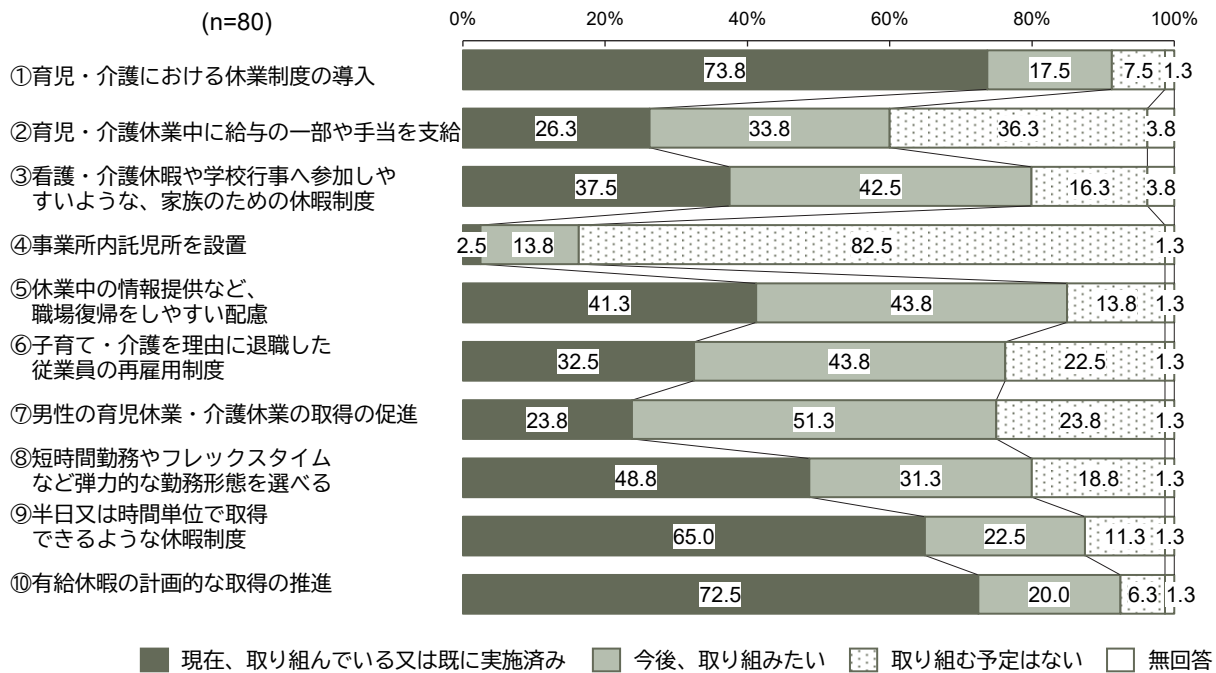
■女性の管理職登用の課題は、女性自身の意識や家庭の事情によるところが大きい

女性の管理職登用にあたっての課題としては、「女性自身が管理職を望まない傾向がある」(45.0%)を半数近くの事業所が挙げており、次いで「出産、育児、介護等で離職する女性が多い」(28.8%)となっています。約3割の事業所では女性の管理職登用において課題はないと回答しています。



事業所調査 両立支援のための取組

問 貴事業所では、男女がともに育児・介護をしながら働くことについて、現在、取り組んでいることはありますか。また今後、取り組みたいことはありますか。(〇は①～⑩それぞれに1つ)



■育児・介護休業制度の導入と有給休暇取得推進の実施率は7割以上

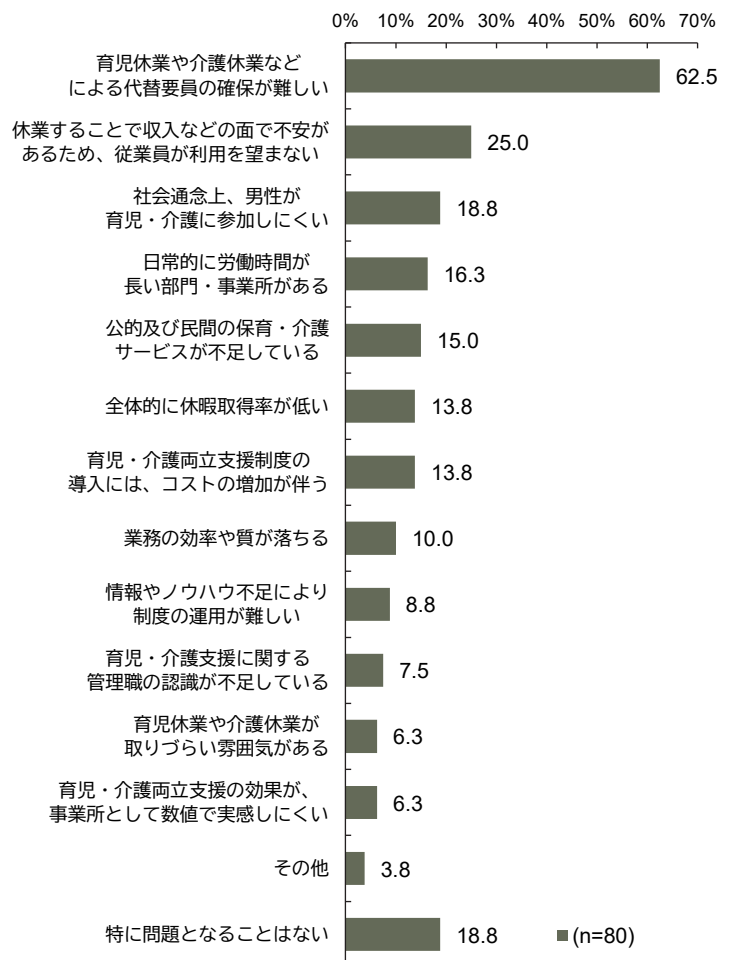
両立支援のための取組では、「①育児・介護における休業制度の導入」(73.8%)、「⑨半日又は時間単位で取得できるような休暇制度」(65.0%)、「⑩有給休暇の計画的な取得の推進」(72.5%)の実施率が約65～75%と高くなっています。

事業所調査 両立支援にあたっての課題

問 貴事業所において、仕事と育児や介護の両立支援を推進しようとする場合、どのような問題があると思いますか。(〇はいくつでも)

■最大の課題は、代替要員の確保

両立支援にあたっての課題は、「育児休業や介護休業などによる代替要員の確保が難しい」(62.5%)が群を抜いて高くなっています。「特に問題になることはない」は18.8%です。

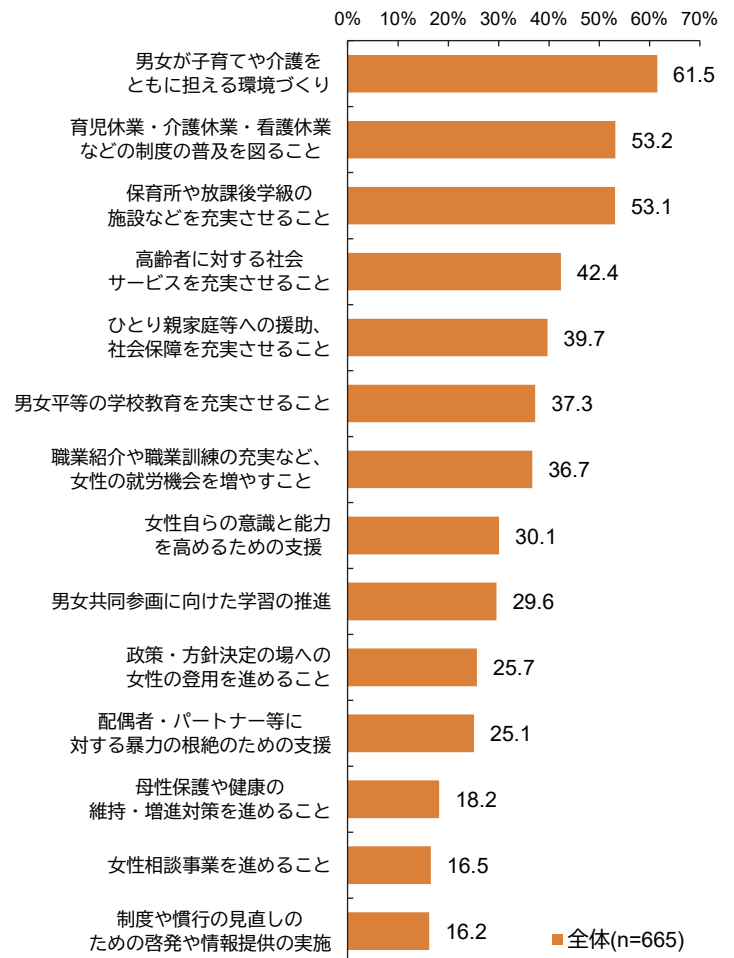


■行政が力を入れて取り組むべきこと

問 男女共同参画社会をめざして、行政が今後さらに力を入れて取り組むべきことは何だと思えますか。
(〇はいくつでも)

■さらに力を入れて取り組むことは、子育てや介護の支援

男女共同参画社会をめざして、行政が今後さらに力を入れて取り組むべきことは、「男女が子育てや介護をともに担える環境づくり」(61.5%)、「育児休業・介護休業・看護休業などの制度の普及を図ること」(53.2%)、「保育所や放課後学級の施設などを充実させること」(53.1%)の順となっています。



■事業所調査 行政に希望すること

問 今後、事業所が男女がともに働きやすい環境をつくるために、行政に対してどのようなことを望まれますか。(〇はいくつでも)

■行政に希望することは、事業所への啓発、能力開発のための学習機会

男女がともに働きやすい環境をつくるために、行政に対して希望することは、「広報誌やパンフレットなどで、事業所に向けての啓発を行う」(26.3%)、「結婚や出産、育児退職後の再就職及び能力開発の機会をつくる」(22.5%)、「男女共同参画や女性の能力開発のための講座やセミナーを開催する」(21.3%)を2割以上の事業所が挙げている一方で、「特に何も無い」が33.8%となっています。

